

持続可能な社会に向けて、 共創関係の継続へ

持続可能で、魅力的な地域をつくるには、市民の力、地域の力、企業の力など、いろいろな力を合わせて地域を運営していく社会をつくる必要があります。プロジェクトアイデアも行政がリードするのではなく、市民対話に参加した皆さんが中心となり、多くの関係者を巻き込んで進めていくことができたらと考えています。

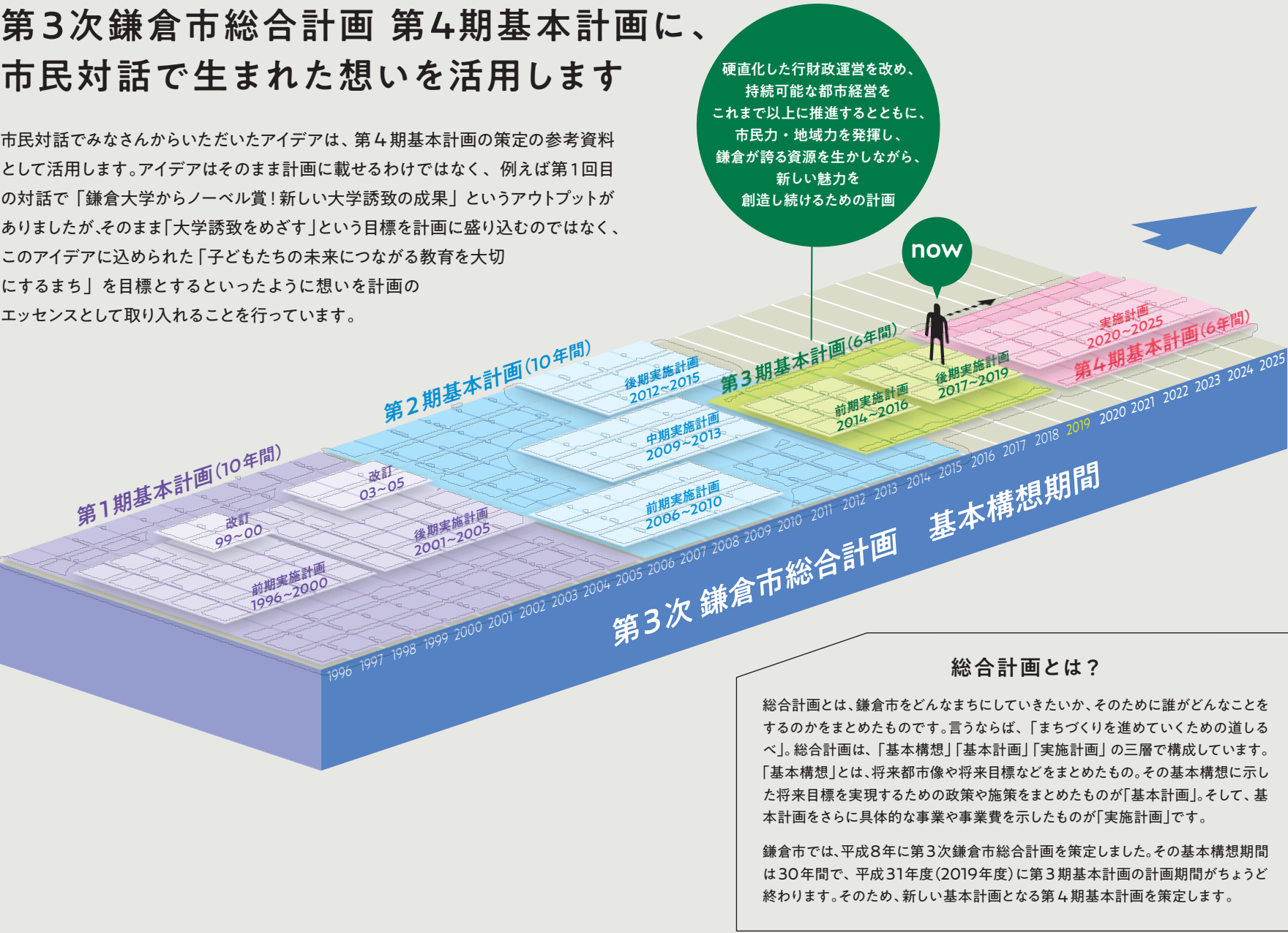
もちろん、行政（鎌倉市）もしっかりと寄り添い、共に考え、行動してまいります。

今回の市民対話をとおして、自ら行動し、仲間を増やすというプロセスを皆さんと実行し、共有することができました。

この取組をさらに充実させ、未来の鎌倉を見据えて、共に考え、行動していきたいと思っています。

第3次鎌倉市総合計画 第4期基本計画に、 市民対話で生まれた想いを活用します

市民対話でみなさんからいただいたアイデアは、第4期基本計画の策定の参考資料として活用します。アイデアはそのまま計画に載せるわけではなく、例えば第1回目の対話で「鎌倉大学からノーベル賞！新しい大学誘致の成果」というアウトプットがありましたが、そのまま「大学誘致をめざす」という目標を計画に盛り込むのではなく、このアイデアに込められた「子どもたちの未来につながる教育を大切にすまち」を目標とするといったように想いを計画のエッセンスとして取り入れることを行っています。



2020年											
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
3月末 案確定	4月～5月 パブリックコメントの実施					9月下旬 計画確定			2020年4月から 第4期計画期間		

第3次鎌倉市総合計画 第4期基本計画策定に係る市民対話

2030年の鎌倉を 「ともに考え、ともに創る」

平成30年6月に鎌倉市は、国からSDGs未来都市に選定されました。

SDGsとは、2015年に国連で採択された、2030年までに国際社会全体でめざす目標のことです。

2030年の鎌倉市をどのようなまちにしていきたいか、そのために何をすべきか、市の総合計画（基本計画）の改定にあわせ、グローバルな視点も取入れながら市民の方々と4回にわたり対話を行いました。

なぜ市民対話を実施したのか？

社会・経済状況の大きな変化により、市民生活も多様化し、まちに求められる機能や生活する上での課題も複雑化しています。「人生100年時代」の長寿社会を迎え、また、テクノロジーの進化や働き方改革などにより、まちで過ごす時間が増すとともに、地域とつながることの重要性も高まってきます。このため、市民のみなさんがまちづくりをジブンゴトと捉え、コミットできる環境づくりを進め、より魅力的で快適なまちをつくっていききたいと考えました。

「鎌倉のまちがどうなってほしいのか？」
「そのためにどんな取り組みをしていきたいのか？」

市民と行政がやりたい姿を共有し、そのために必要な活動をどんどん起していくー未来につながる共創関係を築くことを目的に、市民対話を開催しました。



第4期基本計画にSDGsの理念を反映

SDGs未来都市とはSDGsの達成に向けて取り組む地方公共団体として国が選定しているもので、鎌倉市は第4期基本計画にSDGsの理念を反映することを提案しました。SDGsという世界共通のわかりやすい目標掲げること、同じ想いを持った市民や団体とともにまちづくりを進めていくための、共創関係を築く環境が整ったと考えています。

今回の市民対話もSDGsの考え方をもとに実施し、そこから出されたみなさんの想いも第4期基本計画策定に活用します。

SDGsは Sustainable Development Goals の略称で、日本語にすると「持続可能な開発目標」という意味です。経済格差や環境問題など世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会をつくるため17の目標が示されています。

なぜ共創することが重要なのか？

地域とのつながりが重要となってくる一方、地域の人口は減少する傾向にあります。鎌倉市の人口は、2010年をピークに減少傾向にあり、今後はこれまでに経験したことがないスピードで人口減少が進み、少子高齢化がより一層進行することが予測されています。これに伴い、地域活力の低下や税収の減少をはじめとする、多くの社会問題が生じることが予想されます。多様で高度な社会課題の解決には、様々なノウハウの結集と持続的な取り組みが必要となります。市民力・地域力を最大化し、まちに新たな価値を創造することをめざし、市民・NPO・企業・教育機関等、様々なステークホルダーとの共創関係が重要だと考えています。



SDGsの目標は「経済」「社会」「環境」の3つの領域にまたがっていますが、どれか1つに注力するのではなく、3つを好循環させることが、持続可能な社会を実現する上で大事なポイントとなります。

そのため「経済」「社会」「環境」の3つの観点から、それらがどのように好循環するかも考え、鎌倉市のありたい姿を描きました。

また、SDGsは2030年をゴールに設定しているため、今回描いたありたい姿も2030年をターゲットにしています。

そして、みんなで描いたありたい姿に向かっていくためには、たくさん行動して、たくさん試してみることが必要です。

そのため、今回はまずアイデアを生み出す起点となる「問い」を考え、その問いに応えるプロジェクトアイデアを形にしていきました。



深沢ミュージックフェスティバル

子どもから高齢者まで幅広い年代の市民が参加できる音楽フェスを毎年開催し、好きなことを通じて人とつながり、活動を発信できる場をつくる

?

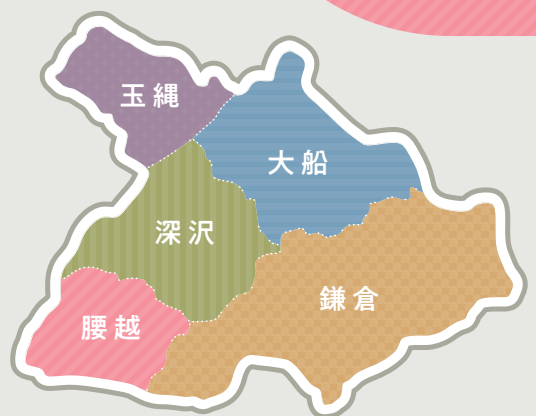
どうすれば、鎌倉に関わる人が生き生きと元気に深沢で過ごせるだろうか？

深沢エリア



もったいない食堂

食品ロスの課題解決をめざす食堂を空き家活用や居抜きでつくり、食や本の読み聞かせなどを通じて世代間交流を行う



ありたい姿に向けて、共創を生み出す問いとプロジェクトアイデア

- 鎌倉エリア
- 腰越エリア
- 深沢エリア
- 玉縄エリア
- 大船エリア
- エリア横断



市民で作るバスルート

3,000~4,000人の居住地域を一つの単位として、生活時間帯にショッピングセンターや幼稚園、介護施設などをまわり、市民の足となるようなバスルートをつくる

?

どうすれば、玉縄に世代を超えて地元住民と外の人が集まる場を作れるだろうか？

玉縄エリア

社会・環境を支え、けん引する経済とは？

- 地域経済を循環させる起業を促進する仕組みがあり、多様な人が活用している
- 域内で経済循環が生まれている
- 鎌倉の資源を促進するための他地域との交流が増えている
- このような仕組みが鎌倉発のモデルとして世界に認知されている



目に見える鎌倉SDGs

SDGsが達成された鎌倉の未来の姿を壁面に描くワークショップを開催。その壁面を市役所ロビーなど開かれた場所に展示し、訪れた市民がさらに加筆することで、多くの市民とまちのビジョンを共有する

?

どうすれば、あなた(大人)の生きている姿を子どもたちに見せたいだろうか？

エリア横断



市議会子ども参加DAY

~7世代先の鎌倉のために~

子どもたちが鎌倉市のことを考える「子ども幕府」を立ち上げ、子ども幕府の代表者が市議会に参加する

?

どうすれば、フリーランスの若者や外国人などが簡単に家を借りられるだろうか？

大船エリア



大船フェス

大船在住の小中高大学生が中心になって文化祭のようなお祭りを毎年開催し、地域の中でのつながりを増やし、地域への愛着を育む

?

どうすれば、地域への愛着・地域性を育む学校教育プログラムができるだろうか？

大船エリア



宿泊型の防災訓練 STAY & SAFE

鎌倉を4地区に分け、それぞれの地区ある学校で、夏休みに小中高生とその家族、町内会防災部が協力して宿泊型の避難訓練を行い、より多くの人に参加してもらうと同時に地域のつながりをつくる

?

どうすれば、鎌倉市民全員が防災訓練に参加するようになるだろうか？

エリア横断



My避難所

1人で行けるもん。近所の人も連れて行けるようになるもん♪



空き家めぐりツアー

空き家オーナーと空き家を使いたい人をマッチングするツアーを定期開催し、鎌倉市内の空き家の利活用を促進する

?

どうすれば、空き家を使って事業を運営したい人が生み出せるだろうか？

鎌倉エリア



空き家でアーティスト・イン・レジデンス

世界中のアーティストに鎌倉市内の空き家を活用してもらい、空き家から新しい鎌倉の文化を発信し、アートのあふれるまちにする

?

どうすれば、地域の中に人が集まりたいところ、開かれた安全な場所を作れるだろうか？

鎌倉エリア



駄菓子屋 de つなごろう

フリースペースを提供したい人と使いたい人をスマホアプリでつなげ、市民の「やりたい」を身近な開かれた場所でも実現すると同時に、地域の人のつながりをつくる

?

どうすれば、住んでいて心地よい鎌倉にできるだろうか？

鎌倉エリア

?

どうすれば、空き家オーナーに空き家活用の良さを伝えられるだろうか？

鎌倉エリア

自然と文化に触れ続けられるまちとは？

- 障害等の有無に関係なく遊べる自然環境がある
- 鎌倉市にある自然や文化について学び、活動する機会にあふれている
- 異文化について学び、交流する機会がある
- 地産地消が環境保全につながっている

?

どうすれば、ストレスなく鎌倉で過ごせるだろうか？

鎌倉エリア

?

どうすれば、鎌倉の居住区の新しい魅力を作り、発信できるだろうか？

エリア横断

市民対話の流れ

4回の市民対話を開催しました。毎回、60名近い方々が参加し、大いに盛り上がりました！最初の2回が「鎌倉市の将来像を描くための対話」、それを受けて後半の2回が「鎌倉市の将来像を実現するための対話」と、大きく2つのパートに分けて実施しました。

1 地域の魅力を集める	2 鎌倉市のありたい姿を描く	3 共創のための問いを生み出す	4 共創活動アイデアを探索する
 2018/12/1 @ 福祉センター 鎌倉・腰越・深沢・大船・玉縄の5つの地区の魅力を集め、それらを起点に、2030年に鎌倉市が取り上げられた未来の新聞の一面を描く。	 2018/12/22 @ 福祉センター 経済・社会・環境の3つの観点ごとに分かれチームを作り、「2030年の鎌倉市の未来の物語」を描く。	 2019/2/2 @ 鎌倉芸術館 鎌倉・腰越・深沢・大船・玉縄・エリア横断で分かれ、2030年のありたい姿の実現に向けて、共創活動を生み出すための問いを検討する。	 2019/2/24 @ 鎌倉女子大学 参加者各自の関心に応じて第3回で生まれた問いごとに分かれ、それに応えるプロジェクトアイデアを企画する。